

九州歯科学会雑誌 投稿の手引き

九州歯科学会雑誌（以下、本誌）への投稿論文は、査読プロセスを迅速化するため九州歯科学会ホームページ（<http://kyu-dent-soc.com>）からのオンライン投稿とする。但し、オンライン投稿が困難な場合は、事務局への事前連絡があれば編集委員会での審議を経て郵送で受け付ける場合がある。

1. 投稿論文の種類と著者

- 1) 投稿論文は歯学・医学教育、基礎研究および臨床に関するもので、国内外を含めて未発表のものでなければならない。
- 2) 本誌で投稿を受け付ける論文は次の通りである。①総説（編集委員会からの依頼が原則、投稿も可）、②原著、③臨床報告（症例報告および症例シリーズ）、④教育報告、⑤トピックス（編集委員会からの依頼のみ）、⑥その他
- 3) 全ての著者は、本学会の会員であり研究内容に対して実質的な貢献をしたものでなければならない。
- 4) 全ての著者は、投稿論文の内容について利益相反関係の有無を申告しなければならない。

2. 研究倫理

ヒトを研究（実験）対象とする内容については、ヘルシンキ宣言を遵守して行われ、被験者または患者との間にインフォームドコンセントを得られていなければならない。疫学研究に関する内容については、調査対象者の人権やコミュニティに対する影響を考慮しなければならない。倫理的配慮や研究対象者への配慮をどの様に行ったかを本文中に記載すること。実験動物を対象とする研究については、各種の動物愛護や保護に関する法律や基準に則していなければならない。関連倫理指針については、監督省庁のホームページ等を参照の上、最新のものを参照しなければならない。また、ここに明記された以外の研究であっても、該当する医学研究指針がある場合にはそれに従ったものでなければならない。

3. 論文の形式と原稿作成に当たっての一般事項

- 1) 論文の構成は、原著論文（和文）の場合、表紙、英文抄録、要旨（和文）、本文（緒言、材料と方法、結果、考察、結論、謝辞等）、引用文献、図表の説明、図表（写真を含む）の順とする。なお、総説、原著論文（英文）、臨床報告、教育報告およびトピックスの形式については別に定める。
- 2) 原稿は Microsoft Word を用いて作成し、日本語は明朝体（全角文字）、英語は Times New Roman（半角文字）を用いて、大きさ 12 ポイントの文字で入力する。A4 1 ページ当り「35 文字×32 行」程度となるように設定して作成する。なお投稿原稿の刷上りページ数については別添の「九州歯科学会雑誌論文投稿に当たっての原稿字数の目安について」を参考にする事。
- 3) 原稿はひらがな（現代かな使い法）、横書きとし、漢字は学術用語など、特殊なものを除き、常用漢字を用いる。数字はすべて算用数字を用いること。外国人および地名はなるべく原語とする。
- 4) 学術用語については、日本歯科医学会学術用語集（日本歯科医学会編、医歯薬出版、2008 年）あるいは日本医学会医学用語辞典（日本医学会医学用語管理委員会編、南山堂、2007 年）に準拠すること。

4. 表紙

- 1) 表紙は和文で作成し、(1)論文表題、(2)著者氏名、(3)所属機関名の順に記載する。
- 2) 論文の表題は簡潔に内容を表したものであること。副表題をつける場合には数字のみでなく、内容を記す。なお論文表題に商品名等が含まれるのは望ましくないので配慮すること。
- 3) 著者氏名は、多数であっても全員を記載すること。

- 4) 所属機関名は省略せず、正式の名称を記入すること。なお共同研究等で複数の所属機関に属する場合には、著者名の右肩に*1, *2, *3・・・の数字を附して対応させる。
- 5) 表題以外に、論文の内容を的確に表す 50 文字以内の略表題（ランニングタイトル）を付けること。
- 6) 最下段に投稿校正責任者の連絡先を記載する。記載は和文および英文で行い、所属機関・住所・TEL・FAX および E-mail アドレスを記す。

5. 英文抄録

- 1) 英文抄録上段に、表紙と同じ項目（論文表題、全著者氏名、所属機関名の順）について英文で記載する。なお、氏名は氏と名の最初の 1 文字のみ大文字で記載するものとし、所属機関名の表記方法は表紙（和文）に準じて行う。
- 2) 英文表題は冠詞、前置詞、接続詞などの付属語ならびに慣用の特殊語を除き、単語の先頭文字を大文字、以下を小文字で記す。またハイフンでつながる複合語の場合、ハイフンの後は小文字で記す。
- 3) 英文抄録（本文）は 250 語以内とし、研究目的、材料と方法、結果および結論を含む内容とする。
- 4) 英文抄録は投稿前に英文校正を受けるものとする。
- 5) 英文抄録の末尾に **Key words** を小文字で記入するが、論文の主題を端的に表現すると思われる単語を 5 個以内選択し、重要な順に記すこと。

6. 要旨

- 1) 要旨は和文で作成し、研究目的、方法、結果および結論を簡潔にまとめ、600 字以内に記載する。
- 2) 要旨の内容は英文抄録と一致したものでなければならない。
- 3) 要旨の末尾にキーワード（5 個以内）を記入する。
- 4) キーワードは **Key words** と同一の内容、順番とする。慣用語句、和訳の困難な用語については、原語で記入するも可とするが、可及的に日本語を選択すること。

7. 本文

- 1) 原著論文の場合、本文は「緒言」、「材料および方法」、「結果」、「考察」、「結論」「引用文献」の順に記載し、各章の冒頭、行中央に記載する。また「謝辞」等は文末に記す。
- 2) 項目を細分する場合は、1・2・3・……、1)・2)・3)・……、(1)・(2)・(3)・……、あるいは A・B・C・……、a・b・c・……、a)・b)・c)・……、(a)・(b)・(c)・……の順によるが、必要に応じて両者を組合せて使用してもさしつかえない。なお編、項、節などの見出し用語は用いない。
- 3) 本文中の外国語（欧文）を以下の通りとする。
 - (1) 人名は通常姓のみを記し、大文字ではじめる。
 - (2) 人名以外の固有名詞（製品名・製造者名）についても、単語の先頭を大文字、以下を小文字で記す。また原則として製品等については、一般名（商品名®あるいは™、会社名、所在地あるいは海外製品の場合は国名）の順に記載する。
 - (3) 文中の普通名詞については、ドイツ語およびラテン語の場合は先頭文字を大文字、以下を小文字とし、英語およびフランス語の場合は全て小文字で記す。ただし文頭であるときは大文字ではじめるものとする。
 - (4) 生物など学会二名法で表す場合は属名の単語の先頭文字を大文字、以下を小文字でとし、イタリック体で記す。なおたびたび使用する場合は、本文への初出時のみフルネームで記し、2 回目以後は属名を省略して、単語の先頭文字で表して差し支えない。

例) *Streptococcus mutans* → *S. mutans*

- (5) 化学物質名、一般的でない薬品名などは原語を用いるものとし、この場合は固有名詞を除き全て小文字で

表す。なおその他の外国語で、原語で示す必要がある場合はこの記載方法に準じて行う。

4) 文中の数字の取り扱いは下記の通りとする。

(1) アラビア数字 (算用数字) : 数量を表す場合

(2) 日本数字 (漢数字) : 数字を含む名詞, 形容詞, 副詞など

例) 第一大臼歯, 一部分, 二, 三の, 十数回など

5) 歯の表記法は, ○顎○側○○歯 (例: 下顎右側第一大臼歯) と具体的に明記するか, Zsigmondy's system (例: 6) あるいは Two-Digit system (例: 46) を用いて表記する。

6) 本文中でたびたび使用する単語については, 略語, 略号を用いてもかまわないが, この場合で切る限り国際的に慣用されているものを用いる。また略語, 略号は, その単語の初出時にフルネーム (略語等) のように記載し, 必ず定義してから用いる。

7) 単位は原則として SI 単位系を使用することとし, なるべく附表 2 に示した例に従う。なお単位の 10^9 , 10^6 , 10^3 , 10^{-3} , 10^{-6} , 10^{-9} , 10^{-12} の SI 接頭語は, それぞれ G, M, k, m, μ , n, p である。単位記号にはピリオド(.)および複数の s は不要である。

8) その他の記号については, 以下の通り記す。

(1) 陽イオン: 元素または原子図の右肩に+, 2+, 3+などと記し, それぞれ 1 価, 2 価, 3 価を示す。

(2) 陰イオン: 元素または原子図の右肩に-, 2-, 3-などと記し, それぞれ 1 価, 2 価, 3 価を示す。

(3) ~ : 数字間では「ないし」を示し, 化学構造式中では高エネルギー結合を示す。

(4) 糖類, アミノ類の構造系統 D, L はスモールキャピタルとする。

(5) 同位元素: 元素記号の左肩に質量数を付して表す。例) ^{45}Ca など

9) 研究補助金についての記載, 謝辞, その他の特記事項等は結論を記した後に記載する。

10) 脚注に学会発表の記事を加えたい場合は, 発表の年月日, 発表機関 (第○回○○学会) を記載する。なお発表年は西暦とする。

8. 引用文献

1) 引用文献は本文末尾に一括して引用順に記載し, 片括弧で番号を付する。

2) 本文中に文献を引用するときは, 片括弧で文の右肩に付す。2つ引用する場合は「,」で, 3つ以上の文献を連続して呼び出す場合は「-」(ハイフン) でつなぐ。著者の姓 (名前の頭文字は不要) をあげ, その右肩に文献番号つけてもよいが, 姓を明記する必要があるときは省略して番号だけを文中につけても差しさえない。複数の著者による論文を著者名で引用する場合, 著者 2 名の場合には「と」または「and (英文の場合)」で連記し, 3 名以上は最初の 1 名のみを記入し, 以降の著者名は割愛し「...ら」あるいは「...et al. (英文の場合)」と記載する。

(1) 1 つの文献を呼び出す場合: 佐野¹⁾は~, あるいは, ~と報告されている¹⁾

(2) 2 つの文献を呼び出す場合: 佐野^{1, 2)}は~, あるいは, ~と報告されている^{1, 2)}

(3) 3 つ以上の文献を呼び出す場合: 佐野¹⁻⁵⁾は~, あるいは, ~と報告されている¹⁻⁵⁾。

(4) 不連続の文献を呼び出す場合: ~とされているが^{1, 3-5)}

文献の記載例

(1) 雑誌論文

引用番号) 著者名: 論文表題, 雑誌名, 巻: 通巻頁, 西暦年。(著者名が複数であっても省略しないこと)

1) 高山義明, 高久田和夫, 宮入裕夫: 光弾性皮膜法を用いた義歯床の力学的検索, 第 2 報 一様曲げモーメントをうける上顎全部床義歯. 歯材器 8: 803-811, 1989.

2) Seghi, R. R., Johnston, W. M. and O'Brien, W. J.: Performance assessment of colorimetric devices on dental porcelain. J. Dent. Res. 68: 1755-1759, 1989.

(2) 単行本

引用番号) 著者名: 書名(編集者名), 版数, 発行社名, その所在都市名, 西暦年, 引用頁.

3) 藤田恒太郎: 歯の組織学, 第5版, 医歯薬出版, 東京, 1963, 145-146.

4) Fawcett, D. W.: A textbook of histology 11th ed. W. B. Saunders, Philadelphia, 1986, 579-601.

(3) 翻訳単行本

原著著名(外国語で): 翻訳者名(訳): 翻訳単行本名, 発行所, 発行年, 引用ページ.

5) Nanci, A.: 川崎堅三(監訳): Ten Cate 口腔組織学, 医歯薬出版, 2006, 200-300.

(4) オンラインジャーナル(印刷体が出版されずオンラインのみで公表されるもの)

著者: 表題. 雑誌名, 巻: ページ, doi 番号, 年

6) Fredman, G., Oh, S. F., Ayilavarapu, S., Hasturk, H., Serhan, C. N., VanDyke, T. E.: Impaired phagocytosis in localized aggressive periodontitis: rescue by resolvin E1. PLoS ONE 6: e24422, doi:10.1371/journal.pone.0024422, 2011.

3) 雑誌の略名は, 医学中央雑誌刊行会編 医学中央雑誌略名表(最新版), 外国のものは List of Journals Indexed in Index Medicus に準ずること.

4) 原則として学会発表抄録の引用は避けること. やむを得ず引用する場合も, 定期刊行物に抄録が掲載されているものに限る.

5) 引用論文掲載雑誌が未発行の場合は, 掲載年の次に「印刷中」または「in press」と記す. また, 投稿中であつても, まだ受理されていない論文は引用文献から除外する.

9. 図, 表

1) 図, 写真, 表などは図と表に分類して番号を付ける. 用紙設定は A4 サイズとして, 図・表ともに一つずつ別ページにする.

2) 本文中の図・表の番号記載は, 文頭, 文中あるいは文末に入れるが, 文末の場合は括弧書きとする.

3) 図・表には, 番号以外にそれのみで理解できる表題と説明を付ける. 図・表の説明は, まとめて引用文献の後に記載する.

4) 図, 写真, 表はカラー・モノクロの指定を行うこと. 図・表を単色で作成する場合は黒で記載し, カラーを希望する場合は著者自身で配色した上でカラーデータを添付して投稿すること.

5) 図・表の縮小率は, 横幅 8 cm または 16 cm を基準とし, 原則として編集作業時に決定する. なお写真は 1 カットを 1 枚とするが, 組写真(10 枚法エックス線写真を含む)を用いる場合はあらかじめ著者自身が作成すること. なお組写真の場合はページ幅(16 cm)を基準とする.

6) 図・表(写真組加工を含む)の修正が必要な場合は, 実費を著者負担とする.

7) 画像データの作成に当たっては以下の点に注意すること.

(1) データ形式は可能な限り EPS または tif(IBM-PC フォーマット), JPEG のいずれかに統一すること(EPS の場合は「ハーフトーン情報を含める」「トランスファ関数を含む」「ポストスクリプトカラー管理」等のチェックは外しておく)

(2) 画像モードは CMYK カラーにすること(RGB カラー画像についてはあらかじめフォトショップ等でカラー変換しておく).

(3) 画像サイズはレイアウトに対応する大きさとし, 画像解像度については写真の場合 300 dpi 以上, 線画の場合 1, 200 dpi 以上にする. なお Microsoft PowerPoint などのプレゼンテーションツールで作成された画像は解像度が低いため特に注意すること.